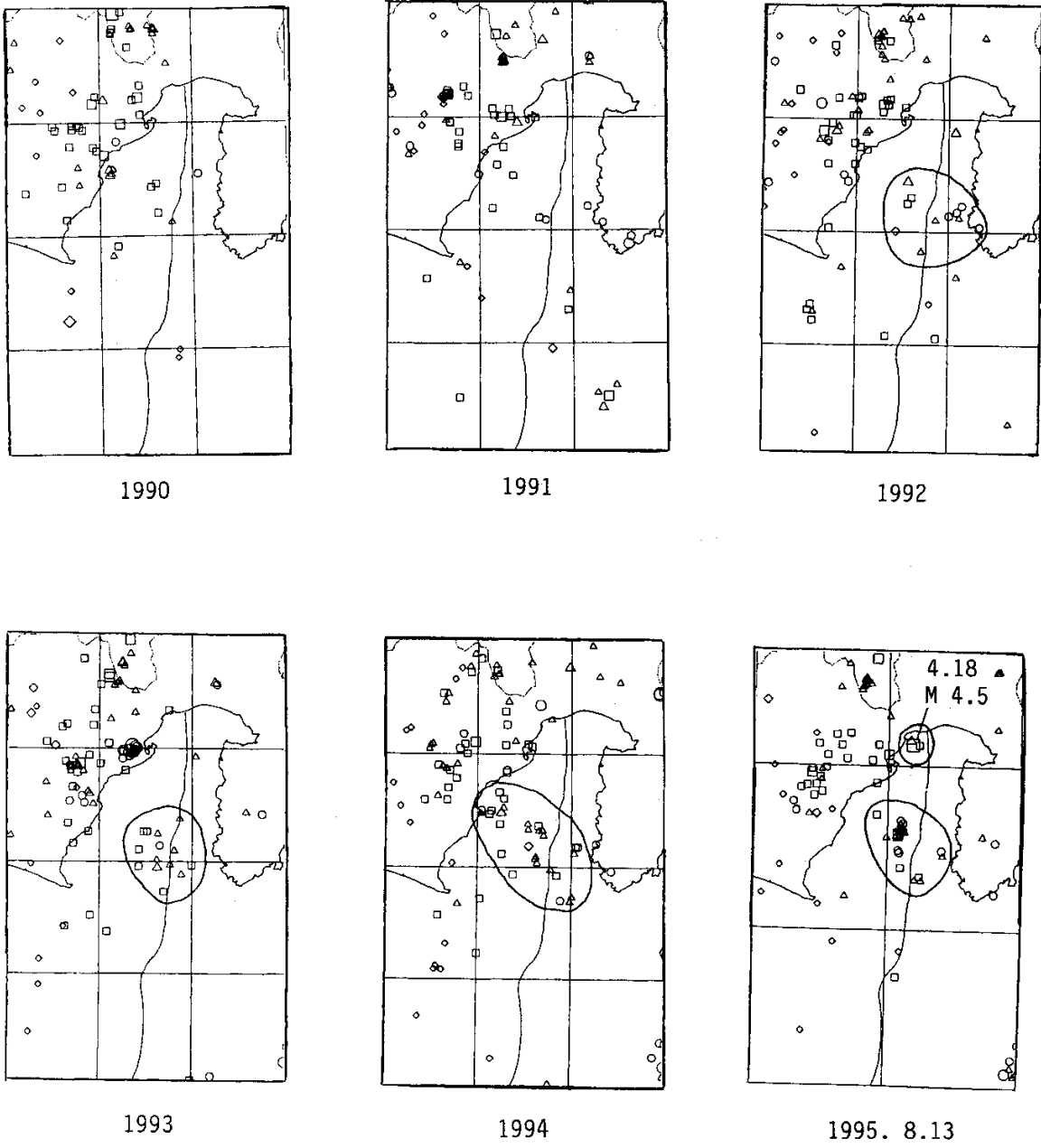


## 5 - 6 最近の東海地方の地殻活動について Recent crustal activity in the Tokai region

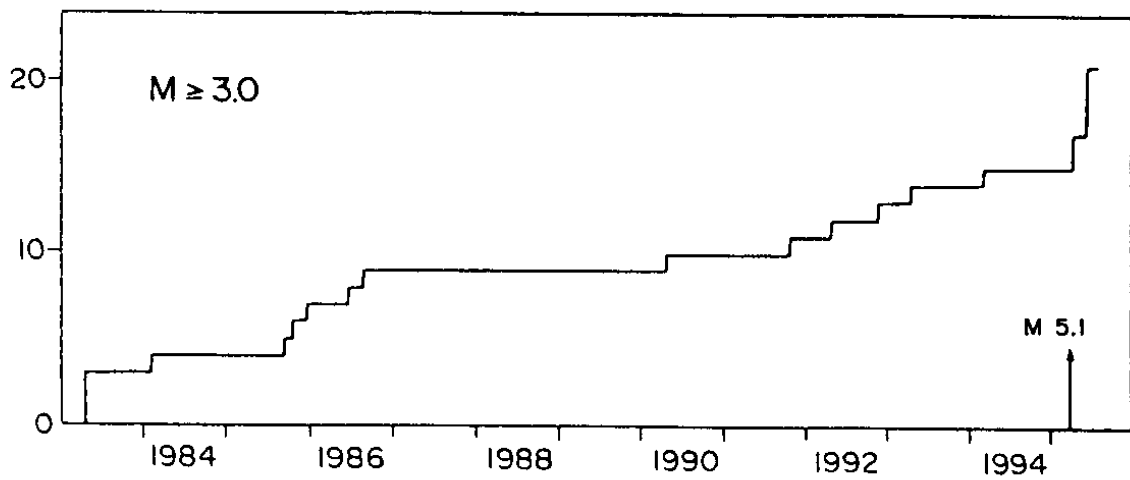
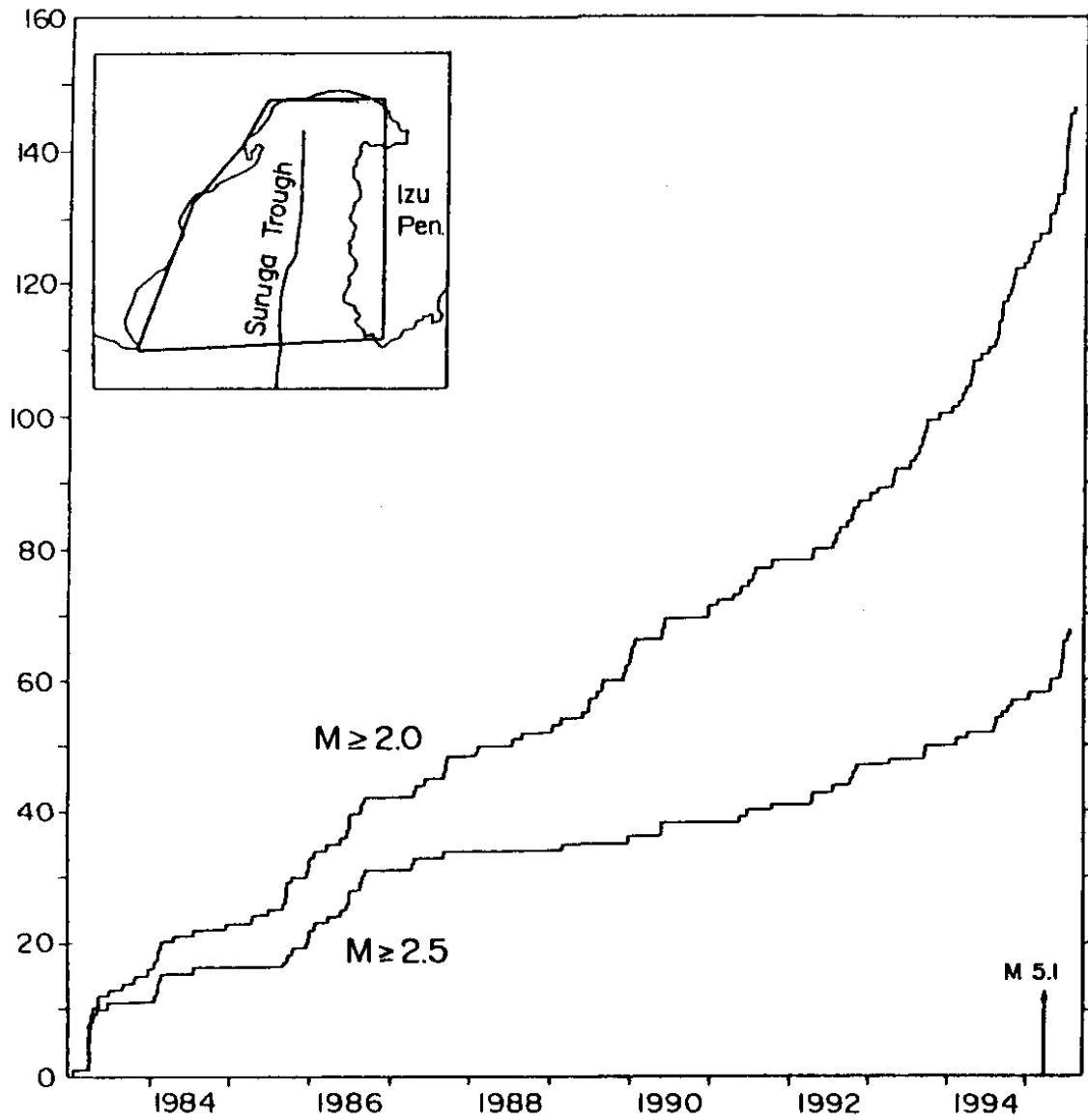
日本大学 茂木清夫  
Kiyoo Mogi, Nihon University

1995年4月18日に駿河湾の西側の奥でM4.5の地震が発生した。この地域での目ぼしい地震の発生は近年これまでなかったことなので、注目をひいたが、さらにひきつづいて駿河湾中部でM3クラスを含む小地震が頻発した。そこで、駿河湾内の地震活動を過去に逆上って見てみると、1992年頃から活動が増加していること、1995年の活動はその延長上にあると見られる。第1図と第2図はこの地域の地震の震央分布図と地震数の積算曲線を示す。第2図を見ると、1986年頃にも活動的な時期があったことがわかる。最近の活動増大は単に観測精度の向上によるものでないことはM3以上の積算曲線からわかる。そこで、地震と同時に最近の駿河湾の西岸の地殻変動をまとめて示したのが第3図である。いずれの曲線もふらつきを示し乍ら変化しているが、駿河湾内の地震活動が高まり始めた1992年頃から御前崎の沈降が停滞していることが水準測量と潮位観測から認められ(国土地理院)、また、粟ヶ岳 - 女神間(御前崎と掛川の間)の水平距離の短縮が停止しているように見える(名古屋大学)。このような変化がほぼ同時に認められていることはこれらの観測開始以来ないことであり、注目される。



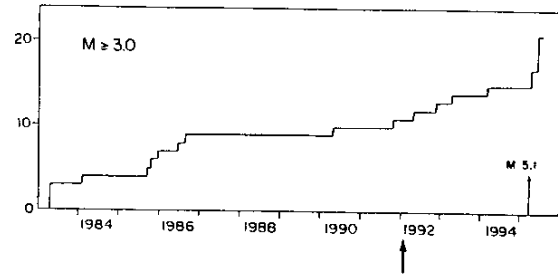
第1図 最近の駿河湾及び周辺の地震の震央分布（データは気象庁）

Fig. 1 Epicentral distributions of earthquakes in and around the Suruga Bay in recent years (data from JMA).

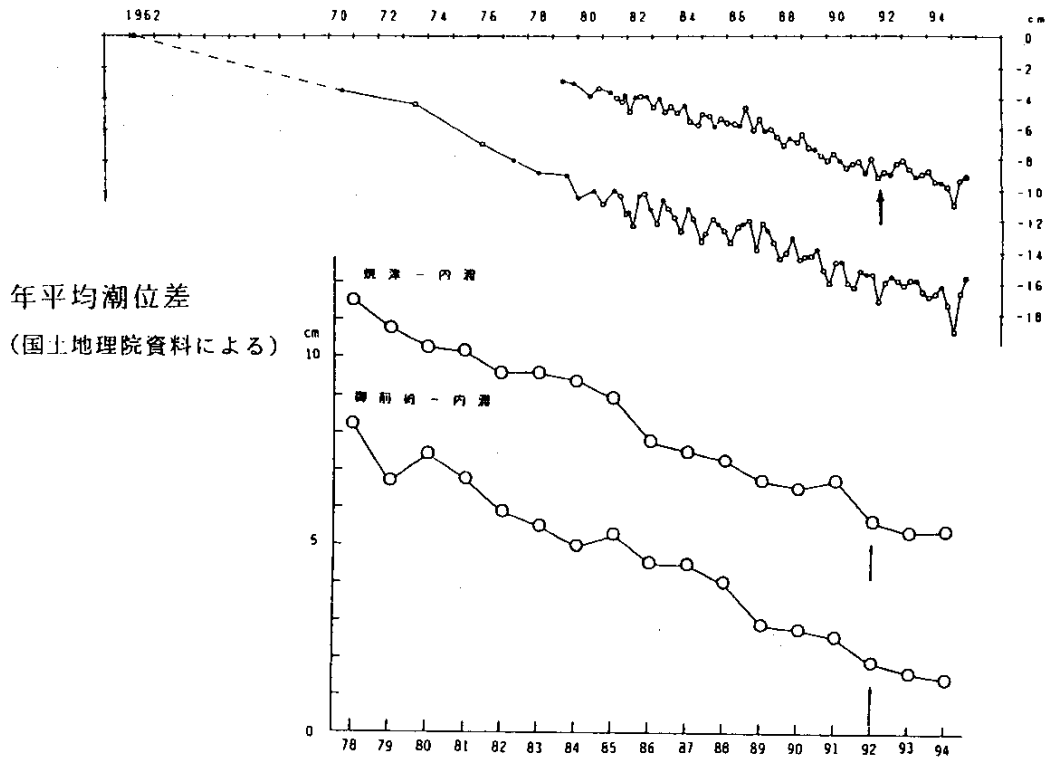


第2図 駿河湾内（駿河トラフ沿い）の地震の積算頻度曲線（データは気象庁）  
 Fig. 2 Accumulated frequency curves of earthquakes in the Suruga Bay region (data from JMA).

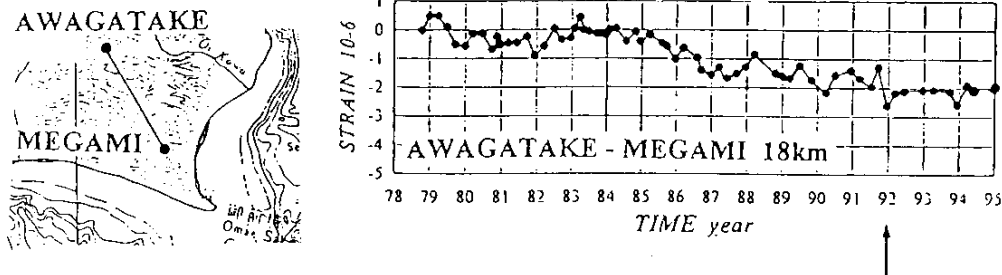
地震活動（駿河湾内）（気象庁資料による）



水準測量（御前崎－掛川）（国土地理院）



距離測定（名古屋大学）



第3図 駿河湾内の地震の積算頻度曲線，水準測量による掛川を基準とした御前崎の上下変動（国土地理院），内浦に対する御前崎と焼津の年平均潮位差（データは国土地理院），及び粟ヶ岳 - 女神間の水平距離の変化（名古屋大学）

Fig. 3 Accumulated frequency curve of earthquakes in the Suruga Bay region, vertical movements at Omaezaki measured by leveling surveys, vertical movements at Omaezaki and Yaizu measured by tidal observations (data from GSI), Horizontal strain between Awagatake and Megami measured by geodimeters (Nagoya University).